

第 3 週金曜日

第 5 歌頌 (預言者イサイヤの歌句、イサイヤ26:9-19)

神よ、我が神^oは夜中より爾を慕ふ、蓋爾の誠は地に在りて光なり。地に居る者は義を学べ。不虔の者は恩を承くれども義を学ばず、直き者の地に居りて猶不義を行ひ、主の威厳を顧みざらん。

十四段に、

主よ、爾の手は高く挙げたり、然れども彼等は之を見ざりき、爾の民を悪む者は之を見て愧ぢん、火は爾の敵を嚙まん。主我が神よ、我等に平安を與へ給へ、蓋凡の事は爾我等に報いたり。主我が神よ、我等を獲よ、主よ、我等は爾の外に他の者を識らず、爾の名を唱ふ。彼等死して復活きず、滅びて復起きざらん。蓋爾は彼等を糺して之を滅し、彼等の記念を全く失はしめたり。主よ、彼等に艱難を加へ、地の驕れる者に艱難を加へよ。

八段に、

イルモス 5 調 「光を衣の如く衣る者よ」

主よ、患難の時我等爾を尋ね、爾の懲罰の我等に及べる時靜に禱を為せり。

主よ、我を醫し給へ、身にて苦を受けしハリストスよ、我爾の創傷に由りて吾が靈の創傷を潔めて、醫さるるを得ん。

妊める婦の産に臨みて苦しみ、其痛に由りて號ぶが如く、主よ、我等は爾の前に是くの如くなりき。

ハリストスよ、爾が身にて木の上に懸けらるるを見る時、日は光を晦冥に變じ、地は震ひ、磐は裂けたり。

主よ、我等爾を畏るるに因りて妊みて苦労し、爾の救の神を生みて、之を地に施せり。

無上の仁慈に由りて棘を冠りし主よ、棘を生じて荒れたる吾が靈を多種の慾より潔め給へ。

我等主を頼みて亡びず、唯地上に居りて地を頼む者は亡びん。

生神女讃詞、純潔なる女宰よ、新なる事なり、爾は嬰兒として我が造成主を生み給へり、彼に多くの惡に古びたる我を新にせんことを祈り給へ。

四段に、

イルモス 1 調 「ハリストス神よ、我等は夜より寤めて」 1 調。

爾の死者は復活し、墓に在る者は起き、地に在る者は楽しまん。

ハリストスよ、イウデヤ人は爾を髑髏の處に十字架に釘し、己の首を揺かして、嘲りて笑へり、然れども爾は忍び給へり、我等を救はん爲なり。

蓋爾よりする露は彼等の為に醫治なり、地は其死者を出さん。

ハリストスよ、ピラトは爾の十字架の標に三様に書して、爾三者の一が甘じて衆人の救の爲に苦しみしことを表せり。

光榮は父と子と聖神に帰す

三者讃詞、信者よ、我等は至りて光明なる三者の三光を歌ひて、光なる父を尊み、光なる子を崇め讃め、光なる聖神を傳へん。

今も何時も世々にアミン

生神女讃詞、潔き者よ、爾より生れし主は爾が諸天使より上なることを顯せり、蓋彼等が

戦きて神として見るを得ざる者を爾は己の子として手に抱き給ふ。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

至りて尊き十字架、救を施す者、世界の守護者よ、我齋する者を護りて、爾に伏拜するに堪ふる者と爲せ。

イルモス 1 調「ハリストス神よ、我等は夜より寤めて、爾我等の爲に貧しくなり、身にて十字架と死とを忍びし主を讃め歌ふ。」

ハリストス かみよ、我等は夜よりさめて 爾我等のために
貧しくなり身にて十字架と死を忍びし主を讃め うた-う

【小連禱】（斎調で）

輔祭 我等復又安和にして主に禱らん、

（詠）主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

（詠）主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女幸・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

（詠）主爾に

司祭 蓋爾は我等の神なり、我等光榮を爾父と子と聖神[°]に獻ず、今も何時も世世に、

（詠）「アミン」

第 8 歌頌（三少者の歌句、ダニイル3:57-88）

主の悉くの造物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 主の諸天使と主の諸天は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 諸天の上に在る水と、主の萬軍は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 日と月と、天の星は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 雨と露と、諸の風は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

十四段に、

火と熱、寒と暑は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 露と霜、氷と嚴寒は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 霰と雪、夜と晝は主を崇め讃めよ彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 光と暗、電と雲は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 山と邱、地と地上の植物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 諸の泉と、海と河、鯨と凡そ水に泳ぐ者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

八段に、

イルモス、「少者は爐に在りて爾萬物を造りし」。

天の諸の鳥と、野獸と、一切の家畜は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

ハリストスよ、爾は己の手を十字架に伸べて、原祖の手の不節制を抹し、木を以て木に縁る詛を釋き給へり。故に我等爾を萬世に讃め歌ふ。

人の諸子と、イスライリ民は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

言よ、我は爾我が救を望む者の前に俯伏す、甘じて十字架及び苦を忍びし主よ、我が心の兇惡なる望を速に絶ち給へ。

主の司祭と、主の諸僕は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

我放蕩の者は放蕩の生活、汚らはしき度生を望みて昧みたり。苦の時に日の光を晦ましし言よ、我に悔改の光線を輝かし給へ。

諸神と諸聖人の霊、諸義人と心の謙卑なる者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

(生神女讃詞) ハリストス神の母よ、我が心の最苦しき痛傷を醫し、我が卑微なる霊を攻むる悪鬼の弓矢を折り給へ。

イルモス「爐の中に歌頌せし少者を救ひて」。

アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

ハリストスよ、我等不當の者は何をか爾苦を受けし萬有の主宰に捧げん、蓋爾は我等の爲に十字架を忍び給へり。我等は爾の無量なる仁慈の恩寵を歌ふ。

主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

ハリストスよ、不法なるイウデヤ人は猜忌に由りて爾を木の上に舉げて殺したれども、爾の光榮の權を減ぜざりき、爾は自由に苦を受けし萬有の主宰なればなり。

我等主なる父と子と聖神^oとを崇め讃めん、

(聖三讃詞) 我は無上の實在なる神性の三位を尊み、無原なる父、子、及び聖神、性の截られざる神を世々に讃榮す。

今も何時も世々に、「アミン」。

(生神女讃詞) 我等は天より上にしてヘルウィムより高き至聖無玷なる少女、萬有の神の母を歌ひて、萬世に崇め讃む。

我等の神よ、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。

三重に福たるハリストスの十字架、天に書されたる勝利よ、爾は地より我等の爲に生じたり、我等衆齋にて潔められし者を爾に伏拜するに堪ふる者と爲せ。

我等主を讃め、崇め、伏し拝みて、世々に歌い讃めん。

【イルモス】 爐の中に歌頌せし者を救ひて、烈しき燄を露に變ぜしハリストス神を歌ひて、萬世に讃め揚げよ。

我等神を讃め崇め伏し拝みて 世々に うたい 讃めん

いろりの なかに 歌頌せし者をすくいて 激しき炎を

露に変ぜしハリストス神を うたいて 萬世に 讃めあげよ

司祭 生神女光の母を讃歌^{ほめうた}を以て讃め揚げん。

(詠) 【ヘルビムの歌】

第1句 我が心は主を崇め、我が^{たましい}靈は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。



第2句 その婢の卑しきを願^{かえり}み給へり、今より萬世^{よろずよ}我を福なりと言はん、

→附唱ヘルビムより尊く

第3句 権能^{ちから}を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん →附唱ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、心の驕^{おご}れるものを散らし給へり、→附唱ヘルビムより尊く

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。 →附唱ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イズライリを納^いれて、我が先祖に告げしが如く、アウラアムと其の裔を世に憐れむ事を記憶し給へり、 →附唱ヘルビムより尊く

第9 歌頌

祝讃せらるる哉主、イズライリの神、蓋其民を眷みて之に購を為し、我等の為に救の角を其僕ダビドの家に興せり、古世より其聖なる預言者の口を以て言ひしが如し、即

我等を我が諸敵及び凡そ我等を悪む者の手より救ひ、以て矜恤^{あわれみ}を我が先祖に施し、
八段に、

イルモスイルモス「イサイヤ祝へよ、童貞女は孕みて」。

其聖なる約^{すなわち}即 我が祖アウラアムに矢^{ちか}ひたる誓を記念せん、

慈悲なる救世主よ、吾が靈の石の如く頑なるを碎き給へ。私の爲に脅より生命を流しし仁慈なる主よ、我に神聖なる傷感の泉、我が不法の流を涸らす者を與へ給へ。

謂ふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、懼^{おそ}れなく、彼の前に在りて、聖を以て、義を以て、生涯彼に事へしめんと。

我諸徳の高きを棄てて、己を諸罪の深處に墜せり。十字架に上りて人類を己に就かしめし主よ、我を就かしめて救ひ給へ。

子よ、爾も至上者の預言者と称へられん、蓋主の面前に行きてその道を備へん、

主ハリストスよ、爾は造成主として、甘味及び樂たるに、膽を嘗めて、アダムの甘味より離れたるを還し給へり。故に我等爾の苦に由りて救はれたる者は爾を歌ふ。

彼の民に、その救いは即ち諸罪の赦しにして、我が神の^{あわれみ}矜恤に因ることを知らしめん。

(生神女讃詞) 純潔なる女宰、我等の恃頼と避所なる者よ、吾が靈の創傷を瘳し、我が智慧を平安ならしめ給へ、我も喜びて爾生神女永貞童女の偉大なるを歌頌せん爲なり。
イルモス、「モイセイが見し焚かれぬ棘」。

此の^{あわれみ}矜恤に因りて、^{あまひ}東旭は上より我等に臨めり、

ハリストスよ、不法の者は嘲りて、爾に王の如く紫袍を衣せ、冕を冠らせ、葦を以て爾の首を撃ち、猜忌に因りて十字架に釘して、膽を飲ませたり。我等衆信者は歌を以て爾を崇め讃む。

^{くらやみ}幽暗と死の蔭とに坐する者を照し、我等の足を平安の道に向はしめん爲なり。

ハリストス救世主よ、日は爾が十字架に苦しめるを見て光を隠し、衆造物は共に主宰の辱かしめらるるに由りて動搖し、磐は裂けたり。我等歌を以て爾を崇め讃む。

光栄は父と子と聖神に帰す

(聖三讃詞) 光と生命と全能、三日光の惟一者、神及び主は惟一の光を以て光りて、惟一の神性の三本質を輝かし給ふ。我等衆信者は彼を崇め讃む。

今も何時も世々にアミン

(生神女讃詞) 潔き母よ、我等は爾聖詠者ダavidが、シオンとして傳へし者、天に容れ難き主が爾の内に入りて、爾の腹に由りて世界に潔浄を成しし所の者を歌を以て崇め讃む。

我等の神よ、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す

主よ、我等節制を以て趨る者に、急ぎ就きて、爾の救を施す十字架、信者の燈たる者を見て、我が成聖の爲に之に伏拜するを得しめ給へ、我等が此に因りて爾を崇め讃めん爲なり。

イルモス「モイセイが見し焚かれぬ棘、イアコフが見し活ける梯、ハリストス我が神が過りし天の門たる潔き母よ、我等歌を以て爾を崇め讃む。」

モイセイが見し焚かれぬ いばら イアコフが見し
生ける かけはし ハリストス わが神がとおりにし
天の門たる いさぎよきははーよ われら うたを
もって なんじを あがほめ讃む

常に福にして (6 調)

小連禱